

<今回>313回目 2022年3月4(金)15時~18時 第8会議室  
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p385、泰山の招集 より

<前回>312回目(22-2-25)出席者 6名

資料(22-2-4-1)前回のまとめ(清水)

一2)今後の予定表(8月まで)(清水)

一3)吉野ケ里遺跡には農業の痕跡があるか。(榛葉)

A 報告 オミクロン株の猛威が止まらない。3回目の接種をもう済まされた方はいますが、老人は致命傷を受ける恐れが出てきた。65歳以上が70%を超える接種率にならないと安心はできない。毎日お茶類を飲んで、靴を脱いで室内に入り、マスクを大半の人が着用する生活習慣をしている日本は欧米に比べれば100分1の感染率で収まっている。基礎疾患のある人に感染させないことが重要である。

B 榛葉氏より資料3の報告を頂いた。私が吉野ケ里遺跡には密集した木造建築や環濠逆茂木の列や甕棺の墓列が印象に在り、農耕の痕跡がないのではないかと聞いたのを受けて、資料を探してくれた。発掘の当初から発掘者は気にされて、水田跡には注意されていた。南の方に池があり、貝川という小川が流れている。この付近に水田痕が出てきた。木製の農耕用具、鍬、鋤、犁が見つかって農耕が行われていたことは間違いがないと。吉野ケ里が遺跡の場所を中心に、ある一定の権力者の支配領域(倭の武王の上表文に書かれた、55国、66国、95国)を考えると、現在発見された水田跡では祭祀用の食糧を賄うぐらいで、十分なものではない。国の領域をどんな広さで考えるのか問題提起された。

C 読書 の代わりに高山氏の疑問について、再度確認した。

1) 学問僧、学生のうち、不明のものをすべて九州倭国からの派遣の人間であると決めつけるのは古田先生としては早計ではないか。遣唐使は近畿天皇家側も大勢の使節団を送り、学問僧を送っていた。九州倭国は隋書倭国伝によると、最後に遂に絶つとあり、618年以前に派遣はなくなっていたのではないか。(同じ倭国伝に沙門数十人を派遣するとあり30~40人は派遣され、少なくない)。

2) 654年高向玄理らが中国の天子に謁見し、侍臣から日本の地理と初めの神の名を質問されて答えたという「日本書紀」の記録を日本が日本と名乗っていた論拠にしているのは不満がある。古田先生は外国資料と国内資料に矛盾がある時には外国資料を尊重することを原則にしていたはずだ。(原則はその通りであるがこの場面では703年以前の何時ごろか日本と名乗ったかを探る箇所、矛盾したところではない。)

3) 日本国の名乗りは何時からか。①670年と新羅本紀に書かれている。通説では参考扱い。著者金富軾も別の事項を見誤ったものとみている。②他称説 中国、半島からみて日ノ本に近いから日本と呼ばれた。日ノ本は東に移動する。③通説では天武ごろから自称に「日本」を使い始めた。隋書の日出处の天子によってという。

4) 倭国の別種論 旧唐書日本伝に日本国は倭国の別種なりと書かれている。これが中国側の認識である。新興の近畿日本国は九州倭国を併合したから、宗主国として九州倭国を倭国の別種とみなすように位置付けた。だから韓智興のような、近畿日本の伝承や記録に乗っていない人物も倭国の別種として扱った。

2022-3-25(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

一4-8(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室